
裏切りNo.01

榊 海良

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

裏切りNo.01

【Nコード】

N79220

【作者名】

榊 海良

【あらすじ】

谷川数那。私立中高一貫校の中等部1年で、入試で1位の成績で入学。幸せな毎日を夢見ているが、学校の理事長の孫の日野瑞花の罠に引っかかってしまう。クラスメイトと瑞花が計画した「裏切り」。

一番最初の裏切りのお話です。

私は今。

—— 大好きな“親友”に裏切られた。

「数那のことを利用していただけよ。」

信じていたのに。

「私は数那のことを“親友”なんて思ったときなんて一度も無い。」

——何故？

「全て演技なの。」

何故
・
・
・
・
・
・
・
・
・

谷川 タニカワ
数那 カズナ。

中学一年生。

13歳。

数那——それが、自分自身の名前だと自覚していない。

——「かずな」のことを利用しただけ。

——「かずな」のことを“親友”だと思ったときは一度も無い。

悪魔のような言葉が延々と頭の中を駆け巡っている。

あんなことが無ければずっと仲良しで居られたのに。

あいつがいなければ……

―四月　入学式

1 - 2

私立日野学園に入学した。

中高一貫校で、もちろん受験で入る。

まぐれだと思いが入試トップで入学。

知らない子達ばかりなので、

ずっと、一人だった。

「えっと・・・谷川さん？下の名前なんていつの？」

初めて瑞花に話しかけられたとき。

一切面識は無い。

何故私に・・・・・・・・？

「う・・・うん。

“ かずな ” っていうんだ。

貴女は？」

とつさに笑顔を見せて、聞きなおした。

瑞花は、ストレートの綺麗な長い黒髪を紺色のヘアゴムでポニーテールにしていた。

お人形さんみたいな整った顔。
透き通るような白い肌。

数那の理想のお嬢様像がまさに、瑞花であった。

一般的な顔に地味な数那とは対照的な子だった。

「私、ヒノミスカ 日野 瑞花っていうの！！ 宜しくね。」

「こ・・・こちらこそ！！！！」

「私、お祖父様がここの理事長で特別推薦枠で入学できたの」

「へえ・・・。」

「貴女、入試トップだったんでしょ？　凄いねー!!」

「いえいえ。。。。」

最初は良かったのだ。

でも、今は後悔している。

― 5月　　体育祭予行練習

「2組優勝するぞ!!!!!!!!!!!!!!」

「オーーーー!!!!!!!!!!!!!!」

もうすぐ体育祭。

まだ予行練習だが、委員長や体育祭実行委員を中心に盛り上がっている。

皆、もちろん半袖・ハーフパンツだが、一人だけ……

後、45分くらいで始まってしまう。

その時、

「日野さん！！ これじゃあ、クラス得点下がっちゃうよ。」

副委員長の川野真紗美カワノマサミが瑞花に言う。

瑞花は、半袖ジャージの上にカーディガンをはおり、長ズボンのジャージを着て堂々と座っていたのだ。 しかも日傘を差して。

クラス得点とは、服装・頭髪も含む得点のこと。

決まりで全員半袖・ハーフパンツにならなければ総合得点から10点下げられてしまう。

頭髪も校則違反がいれば同様に失点してしまうことになる。

競技の得点で好成績をとっても、これは大きな痛手になる。

予行とはいえ、得点の2割が本番の得点にも追加されるから少しでも多くとっておきたいところだ。

対する瑞花というと・・・

「日焼けしたくないの。貴女だって女性なんだから美白には気をつけないと駄目なのよ。」

真紗美はキレた。

「ふざけないで！！ クラス一丸となってがんばってきたのに・・・」

今にも泣き出しそうな真紗美。

副委員長兼体育祭実行委員でもある彼女は、クラスを見事にまとめてきた。

その努力は私も、皆も知っている。

いくら理事長の孫だからと、我が儘すぎる。

すると――

「数那。」

私のことを呼ぶ。

「貴女の意見は？」

瑞花だ……。

皆の視線が一気に向けられる。

な．．なに。 私に助けてもらいたいの？

「．．．。」

「オイ、川野．．泣いてるの？」

男子がいう。

「真紗美！！大丈夫？ 泣かないで。」

彼女の周りに集ま女子達。

委員長高橋裕太^{タカハシユウタ}が男子を引き連れて、こっちに来る。

こわい。

こわい。

こわい。

「日野。お前ふざけてるのか？
い。帰れ。」

そんな奴は1 - 2には必要な

「なんだよ谷川。 お前こんな馬鹿の味方をするのか。」

「だっ たらお前も同類だろ？」

自分への羞恥がたかまってくる。
耳や顔が真っ赤に熱くなってる。

「ち・・ちがッ」

馬鹿！！！！

こんな自分、大嫌い。

はっきりにえない自分。

でも、どうすれば・・・

「数那。 私は悪くないよね。 うんうん、 そうだよね」

私はなにもいってない。

首を縦にも振っていない。

練習場で集まっていたクラスメイト全員が私達二人に集まってくる。

「 悪者達は我が1・2から消え去

れ。
「
「

真っ暗な使われていない器具室へ別々に入れられる。

「やめて!!
やめて!!」

私の声は聞こえない。

いくら叫んでも。

「お願い。 私は理事長の孫なのよ!...!...
出してよ!...!...!...」

「
「 さ よ う な ら 。

「
「

ガチャリと暗黒の室内に鍵がかかる音がした。

それと同時に意識が飛んだ。

（後書き）

短編ですが、この物語には続編があります。
更新率が低いですが、頑張って書いていこうと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7922o/>

裏切りNo.01

2010年11月8日18時58分発行